



～戮力協心～ NO.40

2024年6月13日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

職場の青年部員の“生の声”を会社経営陣にぶつける！！ **青年部本社要請行動を実施！！**

6月11日（火）14：45より、本部青年部は中央常任委員と本社へおもむき、**青年部本社要請行動**を実施しました。冒頭、池尻青年部長が要請文を読み上げ、「交渉において『赤字を理由に手当を抑制するつもりはない』というが、現時点での会社の考え方は、青年部員から見れば『半期の業績』に重きが置かれ、『直近の動向』や『社員の頑張り』が反映されておらず、手当抑制そのものでしかない」「真面目に努力した青年部員の労苦に報い、将来にわたってJR貨物で安心して働くことができるよう、満額回答で誠意ある姿勢を示すこと！」として要請行動に入りました。

要請内容の大筋は以下の通りです。

・ **「『2009年度の年末手当より厳しい』との考え方に、職場からは怒りの声が出ている」**

24春闘で平均1800円のベアが実施されるも、物価上昇が続いて実質賃金は下がっている。2009年度に比べて社員数も減少し、一人当たりの業務量が増えている中で、労働力の価値は上がっている。同じような業務量であれば、より賃金の高い会社への転職を選ぶ青年部員も少なくない。会社と青年部員を繋ぐ糸は、いつ切れてもおかしくない状況にある。繋ぎ止めるためにも夏季手当の満額回答という英断を下すべき！

・ **「要員不足で大雨の対応にも不安」「新規採用でも定員割れが発生している」**

これから大雨の季節となるが、すでに要員が不足している中、職場の青年部員からは対応できるのか不安の声が上がっている。また、今年の新規採用者は定員割れをしているが、今の新卒者は求人票で賃金や就労条件をしっかりと見ている。今後、入社する新卒者のことも考えて、満額回答を出すべき！

・ **「キャリアアップというが、要員不足から運転士養成にも送り出せない」**

地元志向が強く、地元にある職場で働きたいという青年部員もいる。一方で、運転職場は運転士しか入ることができない上、運転職場しかない地域もある。しかし、職場の要員不足から運転士養成に送り出すこともできない状況にある。数字上は人数が多い職場でも、担える担務が限られており、実態としては要員がひっ迫していて、業務を行なうだけでも苦労している！

・ **「労苦への還元がない」「期末手当は我々にとって生活給」**

この間の青年部員の頑張りを見ているのか。労苦へのお金が出されていないのが今の状況である。会社は長期の寸断など災害を含めて考えているというが、我々にとって賃金は生きていくための生活給である。これまでの奮闘に応える判断をするべき！

・ **「現場の管理者・助役が会社と同じ方向をむいているのか」「経営陣も甘く見られる」**

職場で奮闘する青年部員から、職場の管理者や助役の態度、対応、仕事への姿勢に不満の声が上がっている。コスト削減などを現場に求めているが、そういった管理者・助役の姿勢を変えなければ経営陣も甘く見られることになる。社長の思いは職場には届かないし、会社は変わらない！

**会社経営陣は、職場の最前線で働く青年部員の声に耳を傾けよ！
我々の労苦に報いさせるために、夏季手当の満額回答を強く求める！！**